延岡市立岡富中学校
じんけん通信
第７号
（通算１５号）
2019 年
10 月 25 日
【文責】
人権・同和教育
担当：長友伸二

モラルを考える

今月2日(水)、ＪＲ新宿駅で起きた事故で、救出作業のために現場を覆っていたブルーシートの内側に、スマートフォンを差し込んで撮影しようとしていた利用客が多数いたというニュースがありました。

このとき、「お客さまのモラルに問います。スマホでの撮影はご遠慮ください」と、駅員は異例のアナウンスをしたといいます。

とても腹立たしくなるニュースですが、「モラル」とは何でしょうか。

「モラル」と「マナー」

２０１３年のＮＨＫ大河ドラマ「八重の桜」には、会津藩（福島県）で言い伝えられている「什の掟」が出てきます。７つの教えについて述べられ、「ならぬことはならぬ（＝右の条文は堅く守るべきものである）」で締めくくられている、あれです。

「モラル」とは「世代や状況に左右されない、普遍的な価値観・倫理観」という意味です。

「什の掟」には少し時代を感じさせる内容はあるものの、三～五のように今に通じる「モラル」があります。しかし、六のように「マナー」にもとらえられる内容もあります。

「マナー」は「世代や状況によって徐々に変化する常識」という意味です。こうしてみると、モラルには「個人の良心」という主観的な意味合いが、「マナー」には「方法、態度、行儀、作法、習慣」のような客観的な意味合いがあるようです。

世代や状況によって徐々に変化するマナーに比べ、普遍的な価値観を含んでいるモラル。このように考えると、モラルは「道徳」と同じ内容ととらえて間違いないようです。

※普遍的：ある範囲におけるすべてのものにあてはまるさま。

「什の掟」
一　年長者の言うことに背いてはなりませぬ
二　年長者にはお辞儀をしなければなりませぬ
三　虚言を言うことはなりませぬ
四　卑怯な振る舞いをしてはなりませぬ
五　弱い者をいじめてはなりませぬ
六　戸外で物を食べてはなりませぬ
七　戸外で婦人と言葉を交えてはなりませぬ
ならぬことはならぬ

「モラル」を育てよう！

ビジネスの世界では、「モラリスト（良識家）」と呼ばれる方々が存在します。モラルを身に付ける――どのようにすればいいのでしょうか。

モラルは青年期（おおよそ中学生～大学生）に発達します。最初「罰が怖いから素直に従う」段階から、最終的には「他者の立場になって物事・気持ちを考え、他者の気持ちを大切にする」段階に至るそうです（原田唯司『青年の社会的発達』）。つまり、モラルを育てるには「他者理解・他者の尊重」を身に付けることが不可欠です。

例えば、「相手への言葉かけ」。相手への理解（許すことではない）を意識することで、モラルが育てられます。モラルは、自他の人権を守るためにも大切な要素です。

そう、前述のような腹立たしいニュースを減らすためにも。

（ＨＰ「U-NOTE」より一部改）

岡富中ホームページでバックナンバーを公開中！

２０１９年度第７号

【ご家庭から】ご感想をお待ちしております。学級担任にお渡しください。

年　　組／お名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（ペンネームでも O.K. ですよ！）

◆書いていただいた内容をこの通信で紹介してもよろしいですか？（　○　・　×　）